

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。			
効果的な授業	児童生徒の資質・能力向上	教員研修	ICT活用指導力向上
校務の情報化	● 保護者や地域への情報発信	ICT環境整備	ICT活用サポート
ICT活用推進	学校運営・管理	● 保護者や地域による学校支援	地域での児童生徒学習支援
● 学校行事	その他 ()		

学校又は団体名	兵庫県朝来市立竹田小学校		
団体種 (校種、NPO 等)	小学校		
応募者氏名 (漢字)	國眼 厚志	応募者 職名	教諭
応募者氏名 (カタカナ)	コクガン アツシ		
学校や団体への所属年数	3 年	ICT夢コンテストの 応募回数 (今回を含む)	3 回目

実践事例タイトル (30 文字以内・サブタイトル無し)	学級だよりの写真が動く?! 学校と家庭をつなぐ日刊動画新聞		
教科もしくは分野	学級活動、学校行事、理科、体育	教科の単元がわかる場合 (複数可)	動物の誕生、ものの運動
対象者 (学年・他)	2年生児童保護者、全校児童、全保護者		水泳、運動会
実践場所 (PC 教室、体育館等)	普通教室 各家庭	実践時期	6月～3月
活用した ICT 機器、教材、環境等	タブレットパソコン、スマートフォン、デジタルカメラ、輪転機	実践の特長 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択 ※該当する項目の左に●を記入	● 先進性
			普及性

アンケートをお願いします。

コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。

(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。

(回答群)

- ①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞広告より ⑤他のニュース媒体から ⑥前から知っている
⑦教育委員会からの紹介 ⑧上司や友人・所属団体からの紹介 ⑨ J A P E T & C E C ホームページより

番号記入欄	⑥	⑨							
-------	---	---	--	--	--	--	--	--	--

*連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述下さい。また、応募者 E-mail 及び応募者電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述下さい。

- ・ 1 頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮下さい。
- ・ 応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照 URL は不可です。
- ・ 表紙記述 1 頁と実践事例内容記述 2 頁以内、計 3 頁以内で纏めてください。それ以上は受け付けられません。

各項目のフォントはMS明朝 11ポイントで記述して下さい。46文字/行、(1)～(3)項目の記述配分は自由です。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

毎日発行する学級だよりに貼り付けている画像を動画とリンクして活動している様子がよく分かるものにする。東京書籍提供の「マチアルキ」にログインし、完成した学級だよりの画像と動画をアップロード。各家庭には予めスマホやタブレットでARリーダーアプリをダウンロードしてもらおう。配布された学級だよりの写真にスマホのカメラを当てると十数秒のカラー動画が見られ、音声聞こえてくる。学習や活動の様子がダイナミックに伝わるとともに、確実に学級だよりが読まれるようになり、家庭との絆が深まる。

(1) ICT活用の目的とねらい

本実践を行う國眼学級では十数年来、授業日数分以上の学級だよりを発行してきた。学級だよりには学級や学校で行ってきた行事や取組を報告したり、子どもたちの活動を紹介する役割があり、学校や担任と保護者をつなぐ貴重なメディアである。また、毎日発行することで、次の日の予定を知らせたり、持ち物や宿題についても記載でき、忘れ物を防ぐことができる重要なツールにもなっている。もちろん、文字だけでは読みにくいので、適度に画像を挿入し、キャプションもつけ、子どもの様子を分かりやすくしている。また、パソコンからのプリントアウトをそのまま印刷すると写真の黒や灰色がベタとなって詳細が分かりにくいいため、近年ではデータをUSB出力することで、プリントアウトせずにデータから輪転機にかけ、比較的高画質で配れるようにと工夫を重ねている。



学級だよりは毎日発行

そんな中、東京書籍から「マチアルキ」というAR (Augmented Reality: 拡張現実) を用いて位置や画像からタブレットやスマートフォンに動画やテキスト、画像などを映し出すシステムが提供された。位置情報で説明が受けられるので、地域学習や町探検に活用しようと考え、申し込んだ。地域学習のためにと位置情報よりも画像で動画を映し出すシステムを試行していると、学級だよりに使えることが分かり、輪転機のやや低解像度の画像でもARが活用

できることが判明し(東京書籍の方は「難しい」と言われたが)、保護者にアプリのダウンロード方法を知らせ、試しに数号発行してみた。効果は抜群で、すぐに連絡帳に感想が書かれ、できるだけ今後も続けて欲しいと希望された。通常の学級だよりでもかなりよく読まれているが、このARを始めてから家族で奪い合うようにして見ているとのことである。その結果、しっかりと連絡や注意事項、持ち物などもよく読まれるようになり、忘れ物や宿題忘れも少なくなっている。担任と保護者の意思疎通がより良くなり、さらに絆が深まった感がする。

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

本実践を行うには保護者がタブレットパソコンかスマートフォンを持っていることが不可欠である。幸いに担任する子どもの保護者はすべてスマートフォンを持っており、全員がアプリのダウンロードができた。このように端末のOSがiOSもしくはAndroid、さらにはWindows10であれば無料で入手できるということが、普及の一番のカギであったと思われる。そして「マチアルキ」の当初の設定ではかなり鮮明なカラー写真の画像をカメラでかざすことで、クラウド上の動画とリンクする設定になっているということであったが、毎日出す学級だよりはA4サイズの更紙であり、プリントアウトでは無く、輪転機によるやや不鮮明な画像である。それでもきちんと捉えられたことで、学級だよりとして毎日配布することが可能となった。これはどの学校のどの担任でもすぐに行えることで、必要な機材のハードルはとても低い。

リンクする動画を作り、学級だよりに反映させる手順は①動画の撮影②動画の編集③動画から画像のキ



一気にカラーになり、伏し浮きを開始



突然音楽が鳴り、踊り始める



こうやってスマホをかざす

ャプチャー④キャプチャーした静止画を貼り付けて学級だよりの作成⑥プリントアウト⑦プリントアウトしたモノクロの静止画をタブレットかスマートフォンで撮影⑧画像のトリミング⑨マチアルキのウェブで新しいコンテンツを登録⑩トリミングした画像をアップロード⑪編集した動画をアップロード ということになる。

手順として文字で書くとても大変なようだが、これらはほとんどスマートフォンかタブレットで完結できるため、実際に学級だよりの作る時間にプラスして一つの動画を反映させるのは5分程度である。動画編集は20秒程度に短くするというくらいの編集であり、動画から静止画のキャプチャーはパソコンのプリントスクリーンのボタンを押すだけである。本稿によりサンプル動画が参照できる。

AppStore (iOS)、GooglePlay (Android)、WindowsStore (Windows)から「マチアルキ」のアプリを端末にダウンロードする。アプリを立ち上げ、「参加可能なコンテンツを探しています」が出る。次の画面で「参加可能なスタンプラリー」や「体験コンテンツ」が選択できるが、ここでは「参加しない」を選ぶ。次の画面で「公開中のスタンプラリー」としてたくさんのコンテンツが出るが、その中で「竹田小KOKU」を選択する。説明画面とともにダウンロードが始まる。ダウンロードが終了したら「参加する」としてカメラを本稿の写真(上2つ)にかざすと動画が始まる(本稿をプリントアウトしてもパソコン画面上でもマチアルキの動画は開始できる)。動画は保存できないので個人情報は保護できる(後にサーバから削除)。

(3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

元々教室内では子どもの様子を記録しようとタブレットで静止画を撮影していた。同じように動画を撮影しているので子どもたちには違和感はない。ただ、「それまたマチアルキにするの?」とよく言われる。動画が親たちに見られるのならしっかり発表しないといけないと思うのだろう。運動会練習でもダンスの練習でも気合いが入る。保護者は毎日の動画がとても楽しみのようで、練習風景や授業風景を居ながらにして垣間見られることで満足感を得られている。学級だよりの編集に多少の時間は加わるが、この子どもと保護者が以前にもまして学級だよりに注目してくれたことは大変大きい。忘れ物や宿題忘れは本当に無くなり、さらに強固な絆で結ばれるであろうと予想できる。また、理科として不定期に「理科通信」を発行しており、チョウの羽化やメダカの発眼など、動画を配信できる。生徒指導では「GUIDANCE」という生徒指導だよりを配布している。ここでも児童の意見発表などが配信できるため、可能性は広がる。校内で「マチアルキ講習会」も行い、教員に向け、取組へのハードルの低さは理解できたようである。本実践を契機に動く紙媒体であるこの「日刊動画新聞」に多くの仲間が興味をもってもらえると幸いである。